

海岸情報の収集・共有化に関する調査研究

Study on collection and sharing of coastal information

水循環・まちづくりグループ 研究員 後藤 勝洋
 主席研究員 野仲 典理

1. はじめに

わが国は世界で6番目に長い約35,000kmの海岸線を有しており、海岸域は国土保全上も、余暇利用や産業、多様な生き物のすみかとしても重要な場所となっている。この長大な区域を海岸管理者が把握するには、現状では、人員や体制、予算等が十分ではなく、管理に資するための情報も極めて少ない。

「海岸環境調査研究会（座長：岸田弘之 一般財団法人全国建設研修センター 常任参与兼事業推進室長）」では、多様な海岸の情報を主に一般市民から提供していただくことに着目し、海岸情報を収集・共有化するためのウェブサイト「海岸情報ステーション（図-1）」の構築検討を行い、2007年6月に開設するに至った。

本稿は、サイト開設から7年を経た「海岸情報ステーション」の運営状況等について報告するものである。

2. 海岸情報ステーションの運営状況

2-1 海岸情報ステーションの運営状況

海岸情報ステーション（詳細は、「海岸情報の収集・共有化に関する調査研究、リバーフロント研究所報告第19号、2008年9月」を参照）は、利用者からの投稿を情報源として、主に海岸に関わるイベント情報発信する「海岸ニュース」、海岸に関わる様々な話題に対して情報交換を行う「投稿情報コーナー」を中心に、サイトの見易さも考慮しながら更新を行っている。



図-1 海岸情報ステーションのトップページ

URL: <http://www.kaigan-info.jp/>

海岸情報ステーションのアクセス状況として、サイ

ト全体（下記の新潟海岸情報ステーションを含む）の総アクセス数は2014年6月時点で660/日程度であり、2011年のシステム不具合によるサイトの一時休止以降、アクセス数は減少傾向にある。「投稿情報コーナー」への投稿状況として、2010年度で20件/年の投稿があったが、2011年の運営一時休止以降、投稿がほとんどない状況が続いている。

2-2 新潟海岸情報ステーションの運営状況

「新潟海岸情報ステーション」(<http://www.kaigan-info.jp/n/>)は、海岸情報ステーションの地方版として、2007年5月に開設された。

新潟海岸情報ステーションは、海岸とその周辺で気付いたことや工事現場の経過報告、凧を使った航空写真などの地元利用者ならではの発信情報に基づく「投稿情報コーナー」を中心に更新を行っている。2010年度の投稿数が19件/月であったのに対して、運営一週期休止後の2013年度で2件/月と大幅に減少したが、現状（2014年6月）では9件/月と増加傾向にある。

3. 海岸環境調査研究会

海岸環境調査研究会（表-1：研究会活動経緯）は、年1回程度開催しており、2013年10月10日に第18回研究会を開催した。今回は、海岸情報ステーションの発展方策について討議を行うとともに、「東日本大震災後の海岸防災・災害復旧」をテーマとした話題提供、意見交換を行った。以下に主な討議内容を示す。

- Facebook など、レスポンスを前提とした情報交換ツールが主流となってきている中、本サイトが双方向型のサイトを重要視するのであれば、公開の迅速性やレスポンスを促す工夫が必要である。
- 本サイトの役割は、ポータルサイトよりもアーカイブサイトを目指すべき。行政発信の情報は一定期間で削除（あるいは掲載場所が不明になる）されてしまうため、そのような情報を蓄積・整理できれば有意義なサイトとなる。
- サイト運営は人材確保が大きな課題。事務局をサポートする体制を検討する必要がある。

4. おわりに

海岸情報ステーションの運営一時休止以降、徐々に利用者を取り戻しつつあるが、依然として情報投稿の活性化が課題となっている。今後も地道に運営を続け

ていくとともに、研究会メンバー等の協力を得て、地方イベント時における広報を通じて、お互いの顔が見えるネットワークづくりを推進していくことが求められる。

表－1 海岸環境調査研究会の活動経緯

	概要(議題)	研究の方向性
第1回研究会 (平成16年12月8日)	・研究会設立趣旨 ・海辺の市民調査に係る諸問題の整理	市民による海岸調査の実態把握、市民と行政の協働・連携のあり方
第2回研究会 (平成17年1月13日)	・実態調査・連携可能な「モデル海岸」の設定 ・海辺の市民調査活動イメージ ・海辺の市民調査マニュアル構成(素案)	
第3回研究会 (平成17年2月15日)	・モデル海岸の設定 ・モデル海岸を対象としたアンケート調査(案) ・海辺の市民調査マニュアル(たたき台)	
第4回研究会 (平成17年3月8日)	・海辺の市民調査ガイドイメージ ・モデル海岸を対象とした調査計画(案) ・海辺の環境情報データベースイメージ	
第5回研究会 (平成17年5月11日)	・海辺の市民調査の活動計画(案) ・モデル地域の調査方法(案)	
第6回研究会 (平成17年6月15日)	・海辺の市民調査の活動計画(案)	
第7回研究会 (平成17年8月26日)	・先進活動事例(鶴川、山国川、大畑川)の発表、意見交換 ※各地域の市民代表と行政担当を招いた意見交換会を実施	
第8回研究会 (平成18年1月11日)	・先進事例の活動参加報告(鶴川、湘南海岸、海の中道、山国川) ・市民と行政の協働・連携について	
第9回研究会 (平成18年4月7日)	・海岸環境情報整備に関する基本的な考え方 ・海岸環境情報共有システム ・九州ブロックで実施するケーススタディについて	
海岸環境調査研究会ウェブサイトWG (平成18年11月29日)	・海岸環境調査研究会ウェブサイト、個別海岸ウェブサイトの位置づけ ・海岸環境調査研究会ウェブサイト(プロトタイプ)のデザイン、構成	
第10回研究会 (平成18年12月5日)	・海岸環境調査研究会ウェブサイト(プロトタイプ)の設置および内容検討 ・海岸事業による砂浜海岸の生態環境への影響評価に関する基本的な検討 等	
第11回研究会 (平成19年6月26日)	・「海岸情報ステーション」の公開 ・最近の海岸環境行政の動向 ・水族館の仕事と人から学ぶ社会教育」事業報告 等	
海岸座談会 ～海岸保全として取り組むべき課題とその方策を探る～ (平成19年7月7日)	・日本の海岸の現状 ・海洋基本法施行への期待 ・地球温暖化と海岸への影響 ・川と海、地域とのつながり・情報共有ツールとしての海岸情報ステーション	リバーフロント研究所設立20周年記念座談会
第12回研究会 (平成20年1月30日)	・海岸情報ステーションの現状報告、改善案 ・科学的体験学習プログラムの体系的開発に関する調査研究 ・中長期的な展望に立った海岸保全検討会 中間取りまとめ ・第1回アジア・太平洋サミット テーマC「生態系と発展のための水」報告 等	海岸環境情報を収集・共有できるウェブサイト(海岸情報ステーション)の発展検討
第13回研究会 (平成20年6月11日)	・海岸情報ステーションの現状報告 ・今後の研究会活動について ・特命委員会「水の安全保障研究会」緊急提言(案) ・海棲哺乳類のストランディング(座礁)データの携帯電話検索のシステムの紹介 ・東シナ海 海ゴミプロジェクト 等	海岸情報ステーションへの投稿をきっかけに地域と連携したワークショップを開催
はまの環境と漁業を考えるワークショップ(@函館市日尻町) (平成20年8月9日)	・位置網の網起しの船上見学 ・日尻臨海研究所施設見学 ・演題:「持続可能な沿岸漁業とは」 講師:松石隆氏(北海道大学 准教授) 「はま、海岸の環境を考える ー海岸環境調査研究会のメンバーから」	
第14回研究会 (平成22年1月20日)	【各委員からの話題提供】 ・海洋管理のための離島の保全・管理のあり方に関する基本方針 ・汽水域環境の保全・再生に関する研究 ・サンドバッグを用いた海浜安定化工法に関する研究 ・「生きた砂浜」の再生手法に関する研究 ・「日本型海洋保護区」の方向性 ・われら海岸調査隊 ～地元の海を知りつくそう～ ・近代化で犠牲になったもの ー海岸ー ・2010年のハイライト 第10回生物多様性条約締約国会議	各委員からの話題提供に基づく、海岸・海洋保護や東日本大震災後の海岸防災等に関する協議、今後の研究会活動テーマの模索
第15回研究会 (平成22年12月21日)	【各委員からの話題提供】 ・西湘海岸での現地実験について ・海岸管理の変遷から沿岸域環境を考える ・JEANの活動報告 ・国土を守るー公物・生態系マネジメント ・袋詰め工法の実用化に向けた研究 ・海洋の生物多様性 ・平成22年度海の中道海洋生態科学館 海岸環境保全活動の状況 ・地下水と表流水を一体とした 国土管理の必要性 ー海洋保護区への1アクセスー ラムサール条約湿地候補地検討会(環境省 2010.9)	
第16回研究会 (平成24年2月2日)	【各委員からの話題提供】 ・いのちを守る津波防災地域づくりについて ・水循環解析モデルによる 仙台平野津波シミュレーション ・公物管理に関する河川と海岸の比較分析に基づく沿岸域管理のあり方について ・JEANの活動について 2011年の報告と2012年の予定 ・沿岸域の環境と社会の安心 ・津波からの多重防護・減災システムに関する研究 ・2012年海洋保護区国際ネットワーク形成にむけた日本の方向性 ・海の中道の海岸の歴史的遷移 ・いわき市沿岸砂浜の放射線量調査	
第17回研究会 (平成25年2月28日)	【各委員からの話題提供】 ・海岸行政に係る最近の話題 ・大津波に対する沿岸域防災システムの現状と今後の視点 ・沿岸防災と環境保全 ー東北津波がもたらした環境基盤の変化ー ・サンドバック工法による浜崖の後退抑制効果の確認現地実験 ・世界の海につながる島の「地域知」 海洋保護区と地域振興 ・博多湾を食べよう	
第18回研究会 (平成25年10月10日)	【各委員からの話題提供】 ・海岸における復旧・復興海岸状況、海岸堤防高の設定 ・海岸堤防 ・被災地の堤防復旧における課題、津波防災地域づくりにおける自然・地域インフラの活用 ・巨大防潮堤問題を克服するための 統合的氾濫原・流域管理を考える 宮城県気仙沼市中島(小泉)海岸を例として ・地震災害における動物園水族館の連携	